

## 「日常の点検・手入れ」抜粋版

点検時期「必要に応じて」の項目は  
施工工務店にご相談ください。

# ペレットストーブ

## 取扱説明書 PS-711FOM

### お客様へ

- この取扱説明書と保証書をよくお読みの上、正しくお使いください。使用後は大切に保管し、必要なときお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。
- この製品の取り付けには専門的な知識が必要です。据付けや取り替えの際はご購入求めの販売店にご依頼ください。

# 5 日常の点検・手入れ

## 5.1 定期点検表

点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具が必要なものが含まれています。お客様自身で実施できない点検内容についてはお買い求めの販売店へ依頼してください。

### 注意



**正常な機能を維持するために定期点検を行う。**

※ 点検や整備を怠ると事故の原因となります。

**点検・手入れは、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。**

※ やけど・けがの原因になります。



**燃焼室内を掃除するときや燃料を補給するときは、必要に応じてマスクを使用する。**

※ ススやおが粉を吸い込むと健康に影響を及ぼすおそれがあります。

点 検 内 容	点検時期			備 考	参照 ページ
	点 火 前	1 か 月 毎	必 要 に 応 じ て		
ロストルの掃除	●				31
周囲の確認	●				15
灰受の掃除			●	強燃焼 (P4) のとき、10時間 弱燃焼 (P1) のとき、40時間	33
のぞき窓の手入れ			●	透明度が悪くなったら	35
クリンカの掃除			●	3~5時間	36
バッフルの掃除		●		1か月に1回程度 (目安: 500 時間)	39
本体と温風吹出口の掃除		●		1か月に1回程度	42
給排気筒トップの点検		●		1か月に1回程度	43
給排気筒の点検			●	シーズンの初め	44
販売店による定期点検			●	1シーズンに1回程度	44

## 5.2 ロストルの掃除

点火前

掃除

### ⚠ 注意



ロストルの掃除は、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。

※ やけど・けがの原因になります。



ロストルを取り外したときは、落とさないように注意する。

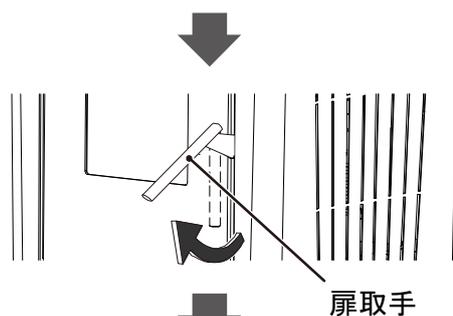
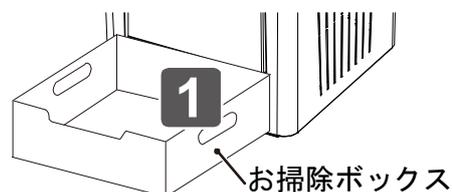
※ 足などに落下した場合、けがの原因になります。

- 1** 本体が常温になってから、付属品のお掃除ボックスを扉の下に置きます。



#### お知らせ

- 灰掃除を行うとき、お掃除ボックスを使用すると、床に灰が落ちるのを防ぐことができます。



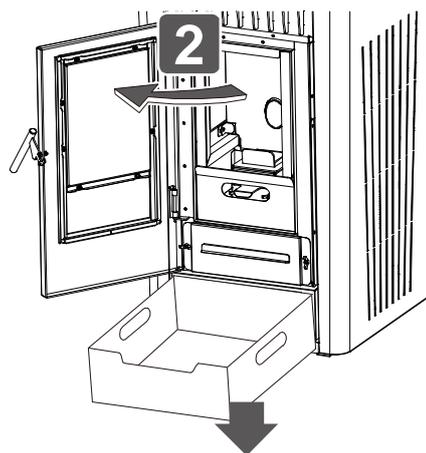
扉取手

- 2** 扉取手を手前に引き、燃烧室扉を開けます。

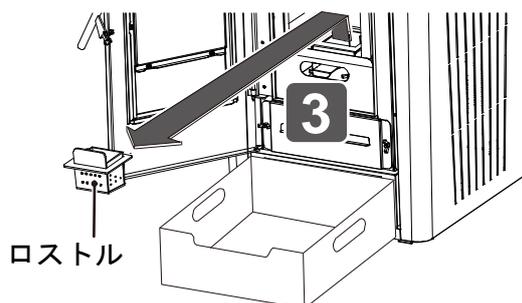


#### お知らせ

- 燃烧室扉を開けると、クリーニング機能(2)を使うと、飛散する灰を軽減できます。(P.25ページ)



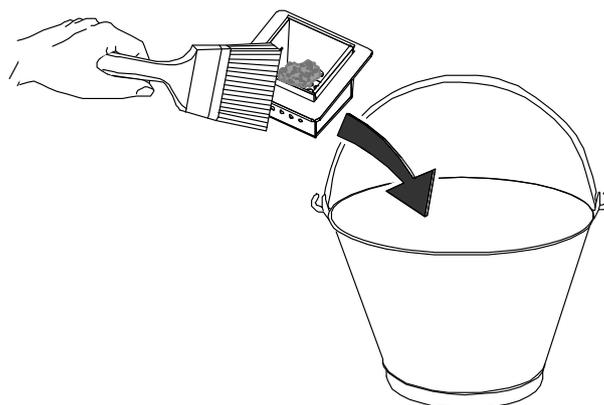
- 3** ロストルを取り外します。



ロストル

**4** 付属品の掃除ブラシで灰を落とします。

- ロストルの穴に詰まった灰も念入りに取り除いてください。



**5** ロストル台底蓋を押し引きして、ロストルの下にたまった灰を落とします。

**！ お願い**

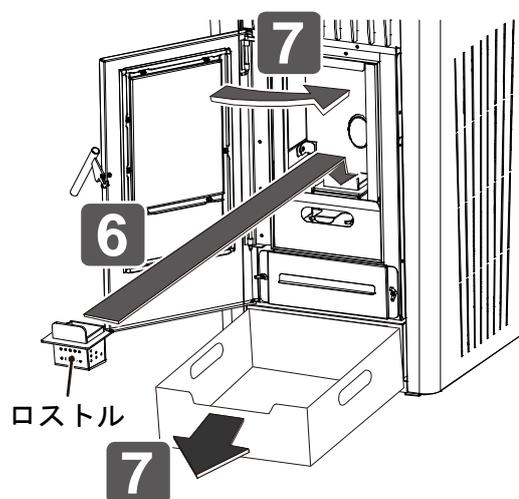
- ロストルの下にたまった灰は定期的に落としてください。  
灰がたまると燃焼不良の原因になります。
- ロストル台底蓋はナットで固定されています。掃除する際はナットを外し、掃除後はナットで元通りしっかりと固定してください。



**6** 灰を落とし終わったら、ロストルを取り付けます。

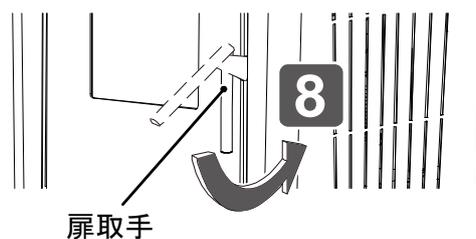
**！ お願い**

- ロストルを取り付けるときは、点火用のヒータ管とのすき間がなくなるように、後方に押し当ててください。



**7** 燃焼室扉を閉じ、お掃除ボックスを外します。

**8** 扉取手を最後まで押し、燃焼室扉をしっかりと閉めます。



## 5.3 灰受の掃除

10~40時間

掃除

このストーブには灰の掃除が容易にできるよう、灰受があります。  
灰受は強燃焼（P4）で10時間、弱燃焼（P1）で40時間をめどに必ず灰を捨ててください。次の方法で確認、掃除をしてください。

### 警告



灰受の灰を定期的に捨てる。

※ 灰受がいっぱいになった後も使用を続けると、火災や事故の原因になります。

### 注意



灰受の掃除は、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。

※ やけど・けがの原因になります。

灰受に未燃ペレットがこぼれている場合は、灰受がいっぱいになっていなくても捨てる。また、熱い燃えカスや火気に充分注意して捨てる。

※ 灰受でペレットが燃えると、ストーブの故障、破損の原因になります。

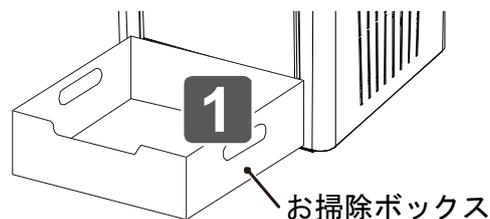
1

本体が常温になってから、付属品のお掃除ボックスを扉の下に置きます。



お知らせ

- 灰掃除を行うとき、お掃除ボックスを使用すると、床に灰が落ちるのを防ぐことができます。



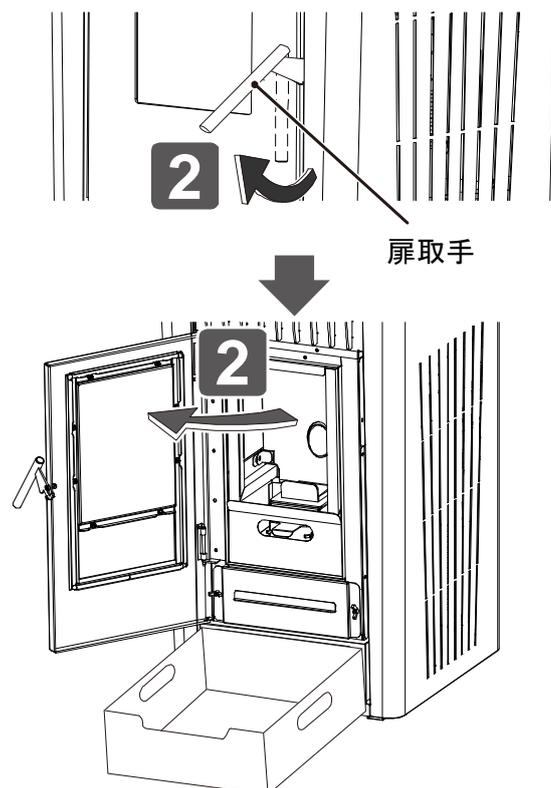
2

扉取手を手前に引き、燃焼室扉を開けます。

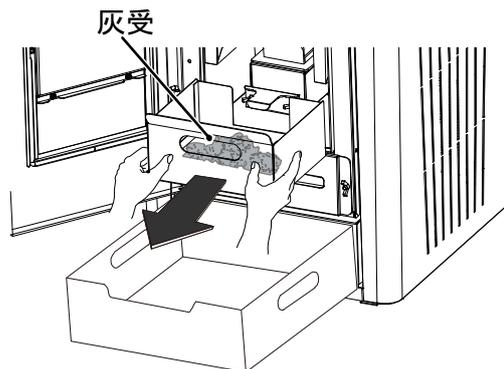


お知らせ

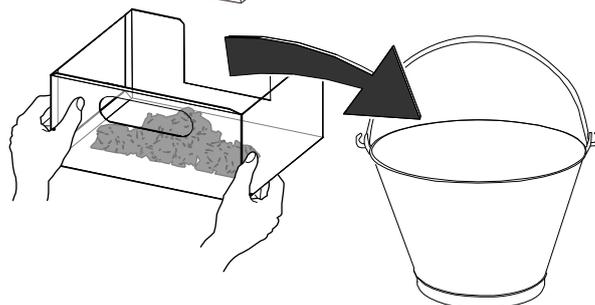
- 燃焼室扉を開けるとき、クリーニング機能（2）を使うと、飛散する灰を軽減できます。（ 25ページ）



**3** 灰受を手前に引き出します。

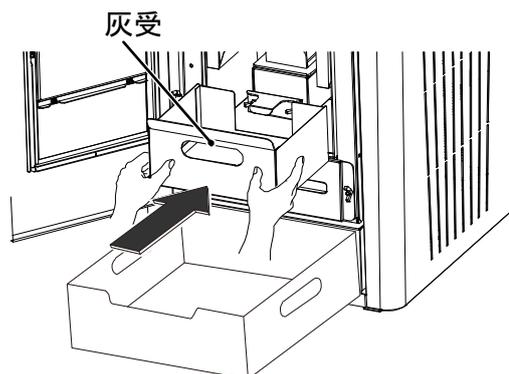


**4** 灰受にたまった灰を捨てます。

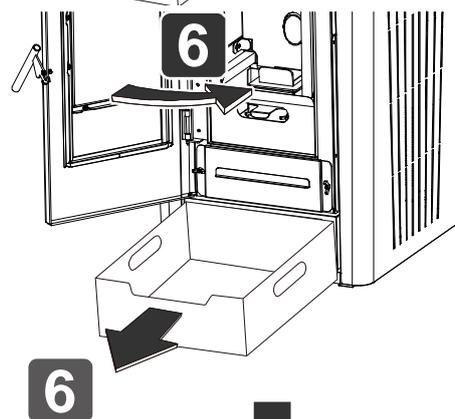


 <b>警告</b>	
	灰を取り出すとき、および灰を捨てる時は、熱い燃えカスや火気に注意する。 ※ やけど・けがや火災のおそれがあります。必要に応じて手袋を使用してください。

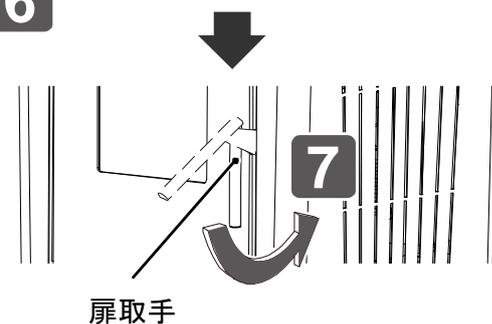
**5** 灰受を取り付けます。



**6** 燃烧室扉を閉じ、お掃除ボックスを外します。



**7** 扉取手を最後まで押し、燃烧室扉をしっかりと閉めます。



## 5.4 のぞき窓の手入れ

適宜

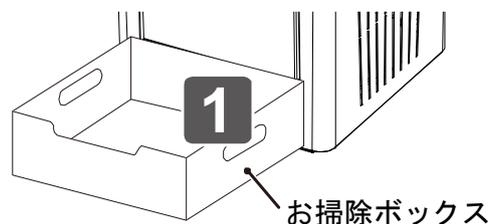
手入れ

のぞき窓の透明度が悪くなったときは、以下の手順で手入れを行ってください。

- 1 本体が常温になってから、付属品のお掃除ボックスを扉の下に置きます。

### お知らせ

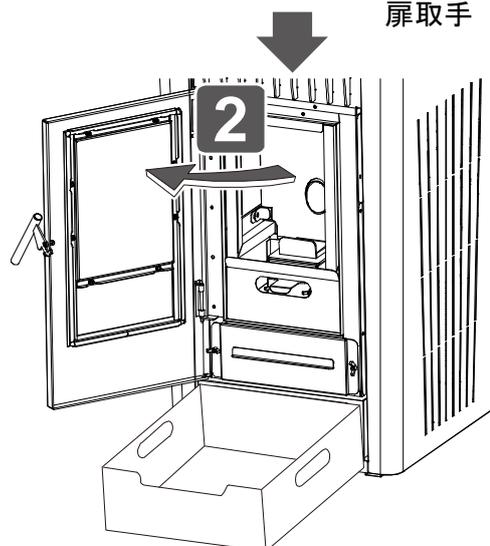
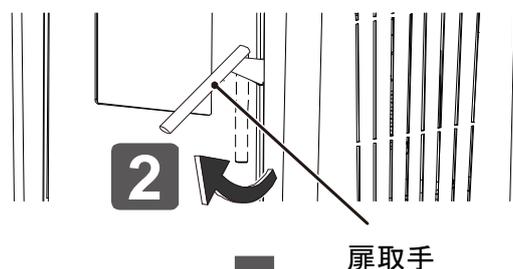
- 灰掃除を行うとき、お掃除ボックスを使用すると、床に灰が落ちるのを防ぐことができます。



- 2 扉取手を手前に引き、燃烧室扉を開けます。

### お知らせ

- 燃烧室扉を開けると、クリーニング機能(2)を使うと、飛散する灰を軽減できます。(P.25ページ)



- 3 内側より少し水を含ませた布などでのぞき窓をふきます。

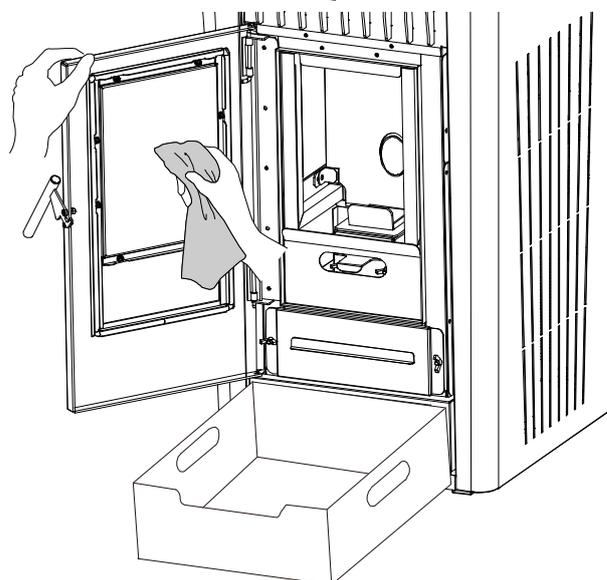
### 注意



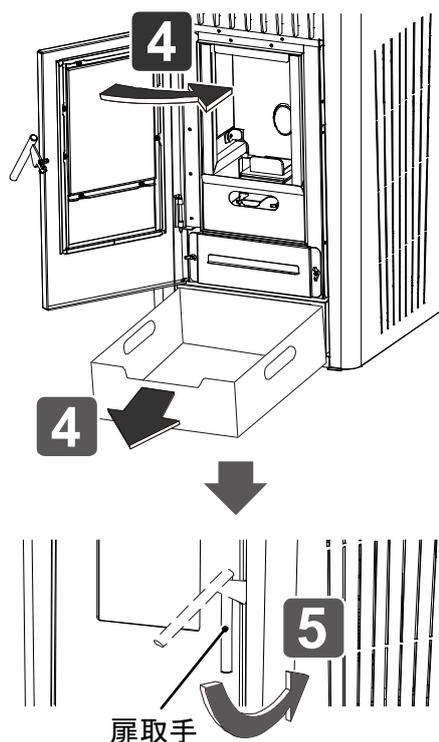
あまり強く押えすぎない。

※ のぞき窓(耐熱ガラス)が損傷したり、割れた耐熱ガラスでけがをする原因となります。

- のぞき窓に損傷がある場合は、お買い求めの販売店へ交換を依頼してください。



- 4** 燃烧室扉を閉じ、お掃除ボックスを外します。



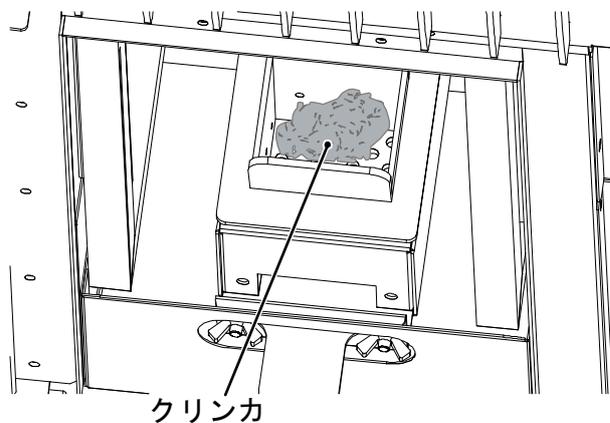
- 5** 扉取手を最後まで押し、燃烧室扉をしっかりと閉めます。

## 5.5 クリンカの掃除

3~5 時間

掃除

- 燃料の種類によりクリンカ（灰が溶けて固まったもの）ができる場合があります。ロストルにクリンカができると、燃烧に必要な空気の送風がさまたげられ、燃烧不良の原因となります。
- クリンカのできる時間は、木質ペレットの性質、燃烧量によっても異なりますが約3~5時間位です。火力が大きいほど発生しやすくなります。



## ■掃除手順

### ⚠ 注意



運転中に確認してクリンカができていた場合は掃除を行う。

※ 運転を続けると完全燃焼しなくなり、煙がでたり、装置の故障の原因になります。



ロストルを取り外したときは、落とさないように注意する。

※ 足などに落下した場合、けがの原因になります。

1

● 運転

● 入/切

を押します。

(☞「4.2 消火のしかた」)

➡ 運転が停止します。

2

消火し本体が常温になってから、付属品のお掃除ボックスを扉の下に置きます。



お知らせ

- 灰掃除を行うとき、お掃除ボックスを使用すると、床に灰が落ちるのを防ぐことができます。

3

扉取手を手前に引き、燃烧室扉を開けます。



お知らせ

- 燃烧室扉を開けると、クリーニング機能(2)を使うと、飛散する灰を軽減できます。(☞25ページ)

4

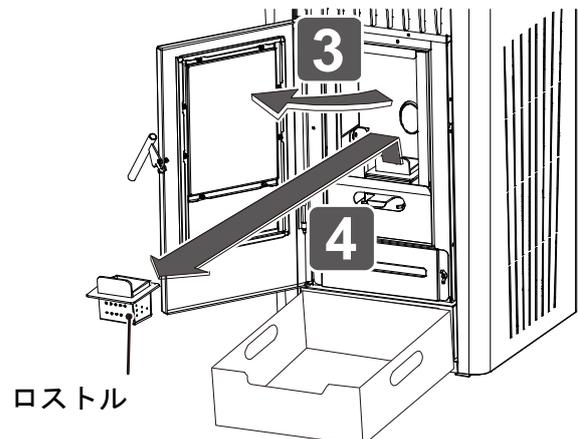
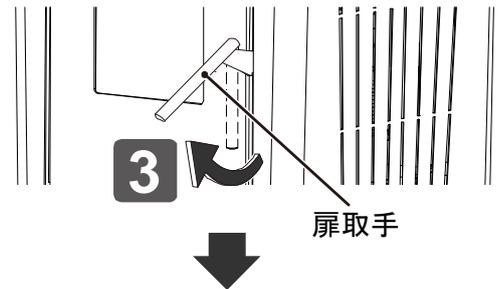
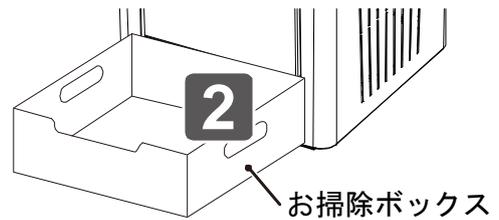
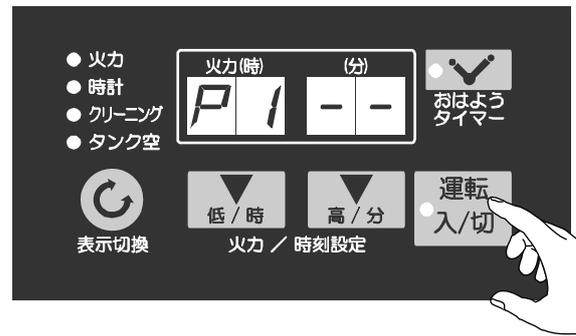
ロストルを取り外します。

### ⚠ 警告



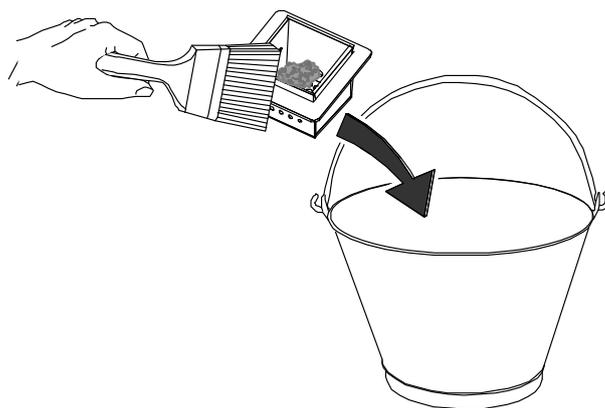
灰を取り出すとき、および灰を捨てるときは、熱い燃えカスや火気に注意する。

※ やけど・けがや火災のおそれがあります。必要に応じて手袋を使用してください。



**5** クリンカを付属品の掃除ブラシで灰受に落とします。

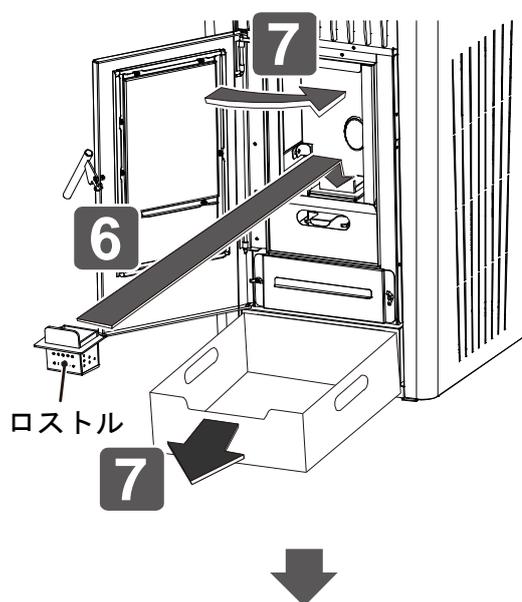
- ロストルの穴に詰まった灰も念入りに取り除いてください。



**6** クリンカを落とし終わったら、ロストルを取り付けます。

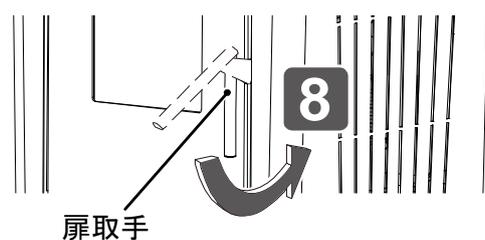
**！ お願い**

- ロストルを取り付けるときは、点火用のヒータ管とのすき間がなくなるように、後方に押し当ててください。



**7** 燃烧室扉を閉じ、お掃除ボックスを外します。

**8** 扉取手を最後まで押し、燃烧室扉をしっかりと閉めます。



## 5.6 バッフルの掃除

500 時間

掃除

### ⚠ 注意



バッフルの掃除は運転を停止してから行う。

※ やけど・けがの原因になります。

バッフルの掃除は定期的に行う。

※ バッフルに灰がたまったまま使用を続けると、燃焼不良の原因になります。

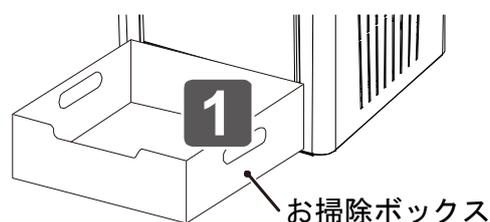
1

本体が常温になってから、付属品のお掃除ボックスを扉の下に置きます。



#### お知らせ

- 灰掃除を行うとき、お掃除ボックスを使用すると、床に灰が落ちるのを防ぐことができます。



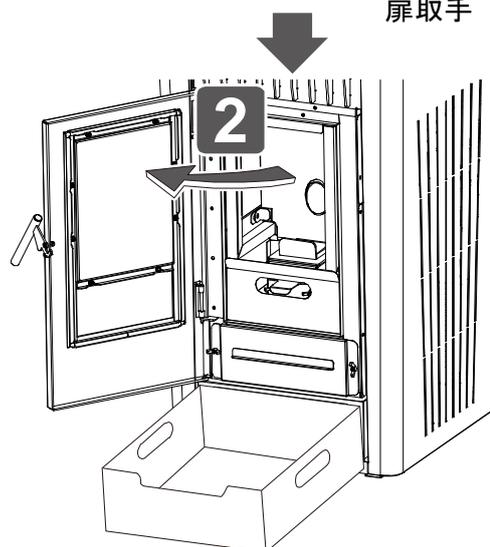
2

扉取手を手前に引き、燃焼室扉を開けます。

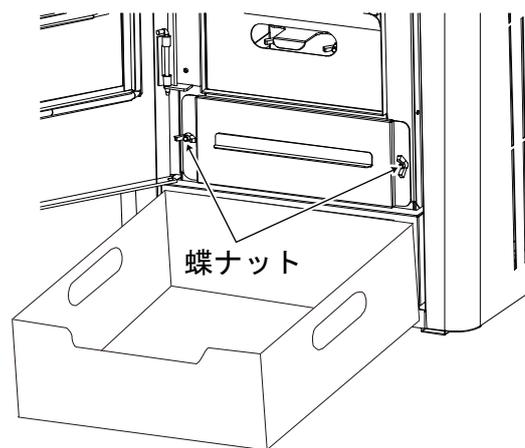


#### お知らせ

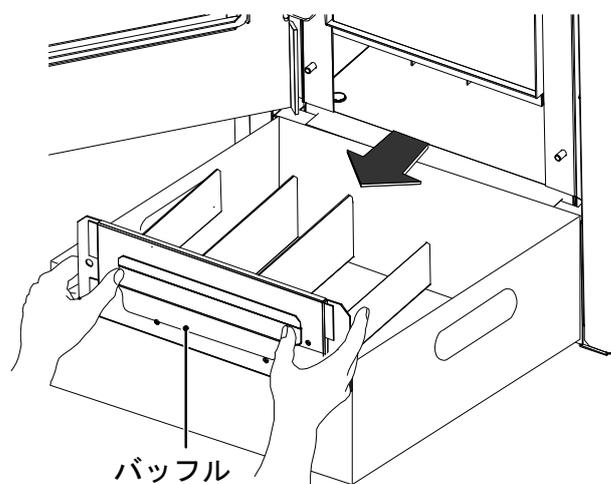
- 燃焼室扉を開けるとき、クリーニング機能(2)を使うと、飛散する灰を軽減できます。(P.25ページ)



- 3** バッフルを固定している蝶ナット  
2個を外します。

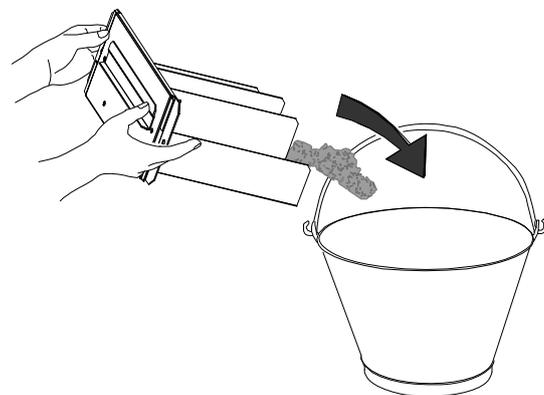


- 4** バッフルを手前に引き出します。

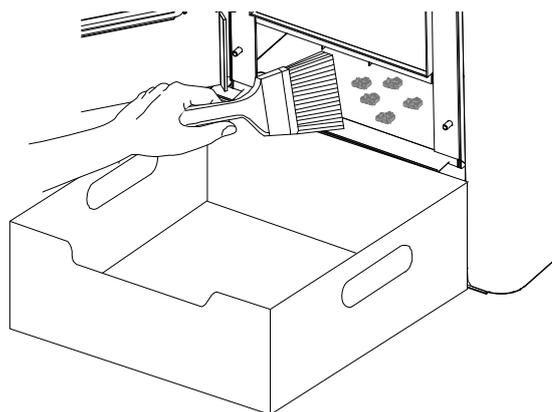


- 5** バッフルにたまった灰を捨てます。

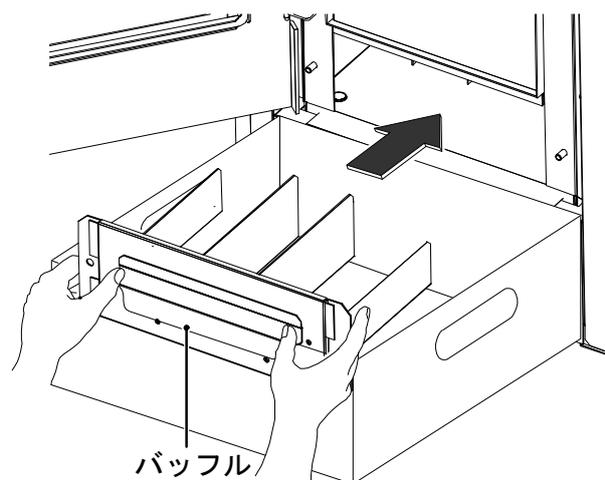
 <b>警告</b>	
	灰を取り出すとき、および灰を捨てるときは、熱い燃えカスや火気に注意する。 ※ やけど・けがや火災のおそれがあります。必要に応じて手袋を使用してください。



- 6** 本体側にたまった灰も、付属品の掃除ブラシでかき出します。



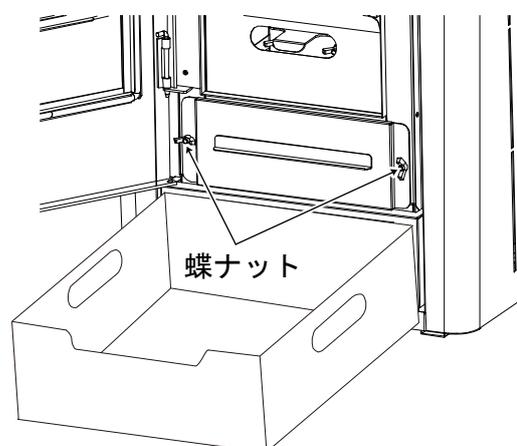
**7** バッフルを取り付けます。



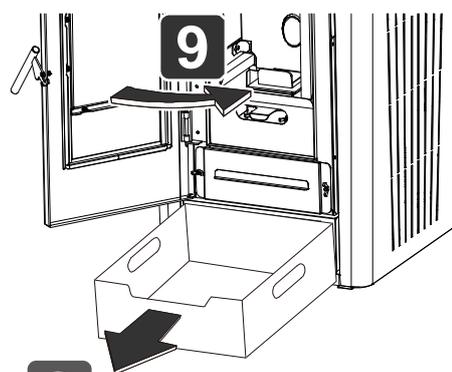
**8** 手順2で取り外した蝶ナット2個で固定します。

**警告**

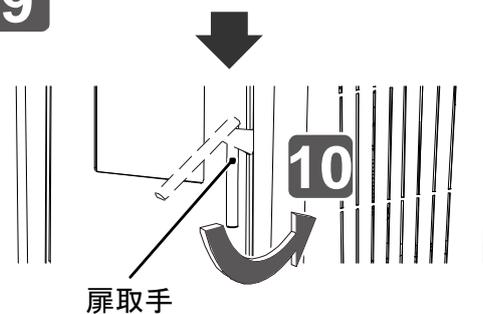
**!** バッフルを固定する蝶ナットをしっかりと締める。  
※ 締めつけがゆるく、本体との間にすき間があると排気ガスが洩れたり、燃烧不良の原因となります。



**9** 燃烧室扉を閉じ、お掃除ボックスを外します。



**10** 扉取手を最後まで押し、燃烧室扉をしっかりと閉めます。



## 5.7 本体と温風吹出口の掃除

1か月に1回

掃除

### ⚠ 注意



本体をベンジン・シンナーなどでふかない。

※ 塗装の色があせたり、部品が変形する原因になります。



本体と温風吹出口の掃除は、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。

※ やけど・けがの原因になります。

1

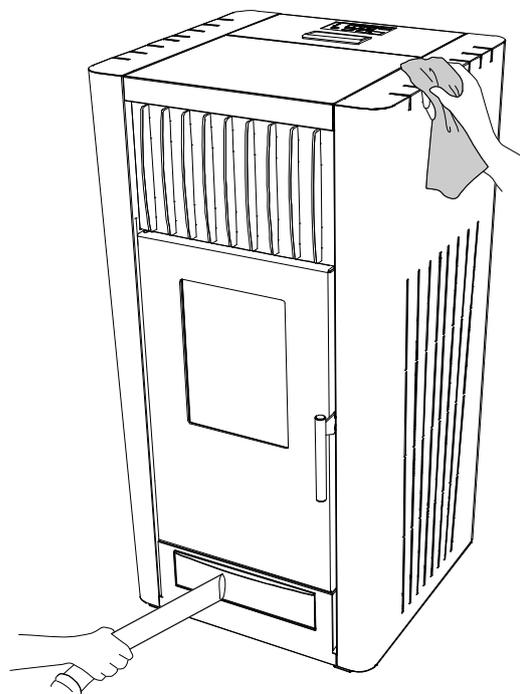
ほこりを掃除機で吸い取ります。

2

汚れは固く絞ったやわらかい布でふき取ります。

#### ！ お願い

- 警告ラベルの汚れはきれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。(P.8ページ)



3

電源プラグの先端部分にたまったほこりを掃除します。

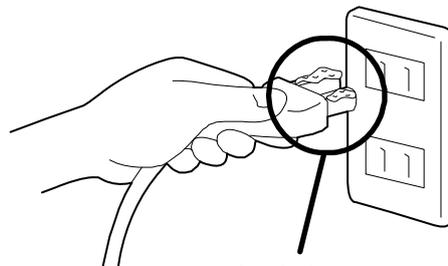


### 警告



ときどきは電源プラグを抜き、ほこりや金属物を除去する。

※ ほこり等がたまると湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。



掃除する

## 5.8 給排気筒トップの点検

1か月に1回

掃除

### 警告



給排気筒トップの近くに可燃物を置かない。

※ 火災の原因になります。当社が規定する可燃物との距離を確保してください。



● 給排気筒トップの掃除は運転を停止してから行う。

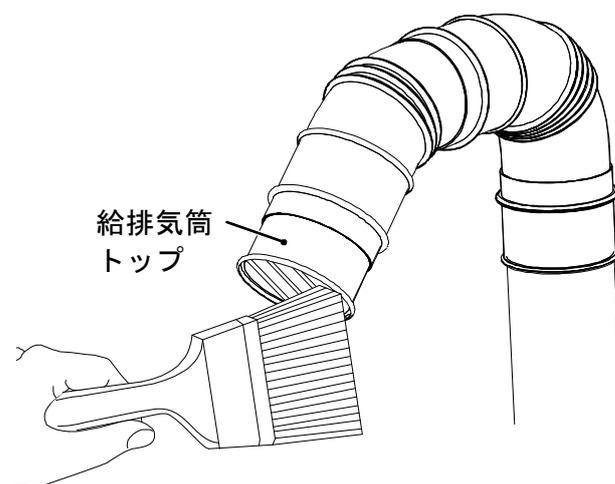
※ やけど・けがの原因になります。

● 給排気筒トップの掃除は定期的に行う。

※ 排気筒トップに灰が付着したまま使用を続けると、燃焼不良の原因になります。

1

給排気筒トップの網に付着した灰を掃除ブラシ等ではらい落とします。



## 5.9 給排気筒の点検

シーズン初め

点検

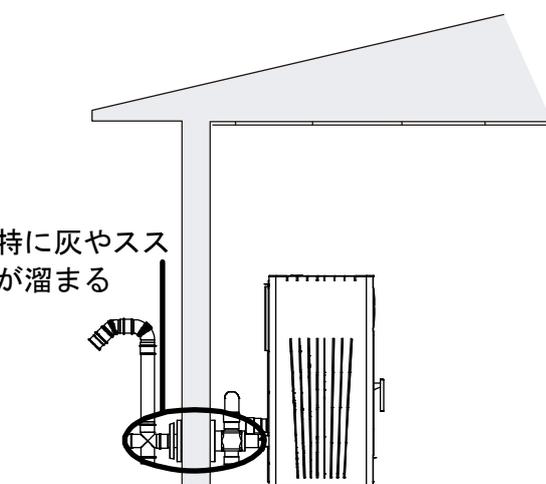
### 警告



- 給排気筒が正しく接続され、すき間がないか点検する。  
※ 排気ガスが室内に洩れて危険です。
- 給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないか確認する。  
※ 排気ガスを再度吸い込み、不完全燃焼の原因となります。

- シーズン初めには必ず点検し、鳥の糞や異物が入ったりしているときは、必ず掃除をしてください。
- 横引きが長いと灰やススが溜まりやすいので掃除をしてください。

特に灰やススが溜まる



## 5.10 販売店による定期点検

1シーズンに1回

点検

### 注意



- 正常な機能を維持するために定期点検を行う。  
※ 点検や整備を怠ると事故の原因となります。

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。

1シーズンに1回はお買い上げの販売店に点検を依頼してください。